

“誠実で地道な努力の積み重ねが、自分を遥か遠くの目的地に到達させる”

平成 27 年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生から、非常に大きな感銘を受けた言葉があります。

「経営状態の思わしくない北里研究所を、背水の陣で立て直しに臨みました。これにはまず、①質の高い研究者を育成すること。そして、②優れた研究アイデアの着想・考案、そのための資金の確保、そして③そこから得た成果を社会に還元することが大切だと考えました」

「中でも人を育てるのは大変なことで、研究所の研究環境のレベルを上げなければ優れた人は育ちません。」

「経営に当たっていつも心掛けてきたのが、『実践躬行』と『至誠惻怛』です。実践躬行は、言うだけではなく、自らやってみせなさいということ。至誠惻怛は、誠を尽くして、労りの心を持つという意味です。」

いかがでしょうか？

日々、経営に真剣に取り組む我々経営者への、大村先生からの熱いエールに聴こえました。大村先生の、実践の中から出た、切れば血の出るような熱誠の思いを、サラッと聞き流していたのでは申し訳がありません。

まず、再建（あるいは経営発展）のヒントとして、

① 質の高い社員を育成すること。

我々は、社員の育成に、どれだけの時間とエネルギーとカネをつぎ込んでいるでしょうか。いい社員がいないと、ボヤいていないでしょうか。まして、質の高い社員の育成に対しては、どれだけ本氣になっているでしょうか。

② 優れた商品・技術・サービスの着想・考案をする、そのための資金の確保。

ダントツ商品・技術・サービスの提供のために、どれだけの資金を捻出しているでしょうか。先行投資・研究開発の資金を確保しているでしょうか。

③ 本業で得た成果の社会への還元。

税金として、寄付金として、あるいは地域社会への貢献として、どれだけ還元しているでしょうか。

④ 会社の社会的地位・環境を良くするために、先頭に立って奮闘努力しているでしょうか。

社長、大村先生の言葉の一つ一つが珠玉のキーワードです。是非とも、身につけて、社業発展に尽くして参りましょう。



今月のポイント

よき人生は、日々の丹精にある。